



シリーズ
第148話

ACCPを知っていますか？

市民病院
4階病棟

ID
751376216

▽市民病院（代表） TEL 22・2171

【ACCPとは？】

もしものときのために、本人が望む医療やケアについて、前もって考え、家族や医療・ケアチームなどと繰り返し話し合い、共有する取り組みを「ACCP（アドバンス・ケア・プランニング）」と言います。そして、厚生労働省はより馴染みやすい言葉となるよう平成30年11月30日に「人生会議」という愛称を決定しました。

誰もが、いつでも命に関わる大きな病気やケガをする可能性があります。命の危険が迫った状態になると、約70%の方が自分の望む医療やケアを決めたり、人に伝えたりすることができなくなると言われています。

【ACCPの歴史】

そもそも「人生会議」は1990年代に米国を中心に始まった動きが基になっています。当時、過度な延命治療が問題視され、本人が望む形の治療を求める声が高まりました。そこで最初に広がった取り組みが、「人生の最終段階において望む治療

を事前に決め、書面に残しておく」という「アドバンス・ディレクティブ（事前指示書）」でした。しかしこの取り組みでは、「一度決断した後でも意思は変わりうる」ことや、「元気がうちに書面を作るのはハードルが高い」といった課題も指摘されるようになりました。

そこで新たに生まれた考え方が、現在の「アドバンス・ケア・プランニング（話し合いによる共有）」です。「決める」ことにこだわるのではなく、自らが希望する医療やケアを受けるために、大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療やケアを望むかを自分自身で前もって考え、周囲の信頼する人たち（家族や医療関係者など）と繰り返し話し合っ共有しておくことが重要なのではないかとこのころから考えられ、繰り返し話し合う先には、きつとみんなが納得できる未来があり、人それぞれに違う選択があると思いません。話し合いを重ねて共有するプロセスが大切です。

今の自分が望む最期の過ごし方を伝える

どんな医療を望みますか？

(例) 孫の結婚式に出たいため、できるだけ入院せず通院して治療を受ける

信頼できる人は誰ですか？

(例) ①家族 ②友人

日頃から
繰り返し
伝える



信頼できる医師は誰ですか？

(例) かかりつけ医

大切にしたいことは？

(例) 自宅で最期まで過ごしたいが、認知症など周りに迷惑をかけるなら施設に入りたい

これだけは嫌なことは？

(例) もう治らない病気なら、つらい検査は受けたくない

話し合いを重ねて共有するプロセスが大切